

資料

史料紹介「諸窺物御下知扣」(徳島県立図書館所蔵「呉郷文庫」本)

須藤 茂樹

「専門研究Ⅰ」
平成二十九年受講生

四国大学文学部日本文学科専門研究Ⅰ(須藤茂樹ゼミ)では、平成二十九年度は徳島県立図書館所蔵「呉郷文庫」本の内「諸窺物御下知扣」の輪読を行った。本稿はその成果である。受講学生は三年生の森本茜・結城千鶴・米田弥生の三名で、随時四年生の阿部愛未・四宮朋佳、本学大学院文学研究科一年生の立井佑佳が参加した。本稿を成すにあたり、取りまとめを森本が、確認を立井・須藤がおこなった。

表題に「諸窺物御下知扣」とあるように、藩からの下知を諸々写し取ったものである。「享和二年亥七月」とあることから、享和二年(一八〇二)のもので、「麻植郡上浦村近久官兵衛所蔵書」とあり、内容も麻植郡に関するものが多いのが特徴である。

藩からの様々な通達、村側の認識や対応がわかる。その内容は、勸農、制服、宗門改め、藩主の鷹狩、水害による米穀値段の高騰、幕府からの孝行などの条目徹底、御壁書の徹底、銀札の始まり、変死検使の心得、勸農普請などの夫役を銀子で負担、検地に関することなど多岐にわたる。特に変死者の検死の心得は長文で、道具を使用した場合、首を絞めた場合、毒殺の場合、溺死の場合などいくつかの殺害方法を想定している。また、することが認められている。竹の値段を詳細に記している点も興味深い。「土

升坪建之法」にも多くの紙数を割いている。阿波国内の御蔵高、給地高、役負担などについても記している。

なお、「呉郷文庫」本は写本であるため、誤字脱字も多々あり、文章の通じない箇所もあるが、そのままとしていることをお断りする。

(表紙)

「諸窺物御下知扣」

(中表紙)

六拾枚

(「呉郷文庫」印)

享和二年亥七月

諸窺物御下知扣

麻植郡上浦村

近久官兵衛所蔵書

(一丁目表)

諸窺物御下知扣

享和貳年戌七月

近久官兵衛所藏

申上覚

一御郡代様御藏御奉行様御検見勸農井懸り

目路見御奉行様方送夫地高へ割相勤候様被仰

付候二付而ハ、組頭庄屋平庄屋御取立人五人組行キ

共扣高之儀ハ引除、百姓共持高へ割符仕相勤候

様被仰候、然處役人扣高多御座村ハ残高無少百

(一丁目裏)

姓共迷惑も可有之哉と奉存候二付、大抵庄屋高貳

拾石二限り、極之高方過分之高ハ送夫諸地被相

勤、右極之高ニ不足之者ハ無差別被仰付候而可

然哉之趣、彼是申上候所、名西・麻植・阿波申談可申

上旨被仰付候二付、重々申談候得共、種々入組単に

相決難申上御座候二付、先村役人共持高之儀ハ御

指除被仰付被遣度奉存候、尤ニより役人高餘慶ニ

有之百姓共迷惑之儀も御座候ハ、其趣意村役

人方時々御下知可奉伺候、右之段奉申上候、以上、

戊六月廿六日

入交村坂東兵八四人連名

(二丁目表)

御手代當

戊七月十九日内藏之助様・武七郎様御意

一組頭庄屋并庄屋五人組行キ等、所持之名肩地讓

請地、又ハ五年切買地たりとも、只今所務仕居申
持懸り、地高貳拾石迄ハ其人々諸地高懸り指除
可申事

但、廿石以上所持之地高有之分、百姓并ニ地役相

懸可申候、廿石以下所持之者ハ持懸地高地役

指除申筈、百姓共始其餘不依何者ニ所持之地高

之義、名負地讓請地買地共無差別都而村懸り

(二丁目裏)

地高懸物相懸可申事

且、穢多共所持之地高之義も地役懸賃銀取立

事

一五人組之儀、庄屋同断地高懸貳拾石迄ハ指除

候様被仰付候二付而ハ、比後庄屋同様御用方出精

仕相勤可申筈、庄屋指支等有之節ハ、諸事引請御

用大切ニ相勤可申候、是迄不動之者有之候ハ、

御指替可被仰付事行キ共儀も右同断貳拾石高迄

ハ諸懸物差除候様被仰付二付而ハ、随分出精仕

無怠御用大切ニ相勤可申候

(三丁目表)

申上覚

一御郡代様御藏御奉行様御検見勸農井懸り御

目路見御奉行様送り夫地高へ割符等仕相勤候様被

仰付二付而ハ、他村遠方方小作之者又ハ家督相應ニ

相控候而も、老幼之者女等ニ而預ケ地ニ仕人抱不居

申者共儀、送夫数人御用之節又ハ當日臨時御用

相談申様之節、右無人之者共指支可申奉存候、右二付、賃金を以相對二相雇申義も、春冬手透之節ハ相應之賃銀二而、相雇申義も相整可申候得共、夏秋農事多忙之砌ハ、過分之賃銀指出不申候而ハ

(三丁目裏)

雇人指出申義も相成不申迷惑可仕奉存候二付、此後送夫地高懸之義ハ篤と百姓共申談、為仕送夫賃銀壹丁何程壹里何程と賃銀相定置勤方ハ是迄之通一切夫役二而為相勤、右賃銀村中地方へ割賦仕、夫々取立百姓共へ相渡候様被仰付候ハ、旋而宜敷奉存候、尤夫仕配方之儀、庄屋五人組共儀ハ、地盤御用多御座候得ハ、夫仕方日々銘細二筆記勘定難行届奉存候二付、仕事之儀ハ百姓共内慥成者一村二壹人宛裁判為仕、年分人夫召仕候賃銀札庄屋手元二而、毎年五月晦日・十月晦日両季二

(四丁目表)

相約銘細帳奉入御覽御聞届之上、村中総高へ割符仕、右帳面裁判人へ相渡賃銀取約御用相勤候者へ、夫々相渡候様被仰付候へハ、旋而宜敷御座候、且右才判人日々庄屋手元へ相詰候、手間料筆墨紙料之儀ハ村高方相償候様被仰付度奉存候、右之段郡中申談候運奉申上候、且又名西・阿波へも申談候得共、郡々入組候趣意も御座候而、一樣二難相決御座候二付、先郡中申談候運奉申上候、以上
戊六月廿六日
入交・坂東

(四丁目裏)

御手代中當テ

右御六方様送夫地高懸二相勤候儀、先達而奉伺上候通、夫役を以相勤年中両季二賃銀地高へ割符仕取約送夫勤趣之者へ割渡候儀、御聞届被為遣候御趣被仰出奉畏候、右二付而者村々道程二應賃銀極帳面相極追而可奉指上候、尤聊不筋無之様正敷申付候事

但御下知二而ハ無之候得共、篤申談不正之儀無之様了簡可仕旨被仰渡候

入交・近久へ御下知

一是迄夫役二而相勤候、諸品懸物此後一切地高へ

(五丁目表)

相懸上納可仕旨、岩田内之助様・稻田武七郎様御下知追而組頭共方請書指上候様、七月廿日被仰渡候

七月廿日官兵衛へ御下知

一送夫地高勤之儀、仮御檢地分ハ類地之高二相准可申事

入交又右衛門七月廿日御呼懸左之通被仰渡候

一村々勸農御普請所出水之節、御手當之儀先達而防等申談、堤之最寄之者郷高取郡付浪人其餘

(五丁目裏)

之者大抵堤之間数何程ハ何右衛門請持相防申
旨、大抵提人々請持場所相極置可申候、最早出水
之時節ニ候得ハ、片時も遂了簡候様被仰付、并右
防方所々請持人名面等夫々帳面ニ記可指上候、郷
高取・郡付浪人・郷鉄砲之類ヘハ、名面申出次第御
配ハ御郡代様可被仰付御趣被仰出奉畏候、来ル
廿五日私共寄合申談相極可申上候、右之段同役
ヘ夫々申継事

一御家老様・御中老様御拝知頭入百姓并御藏百
姓共之内御家来ニ被仰付趣ニ而、先年居切手所ヘ御

(六丁目表)

指趣被成、村々役人共手元ニ請取置御座候、是等
之儀夫放之御付紙も無御座候得共、小役ハ相省キ
夫役銀等納仕、宗門御改も百姓帳ニ相籠リ宗判
仕居申者共ニ候得ハ、御家来ニ御座候、居手形請込申
段心得違之儀ニ御座候、右運を以居手形請持置
候而ハ、御郡代様御趣意ニ相極振申ニ付、指戻候趣を
以、村役人方夫々指戻尚又御家来ニ被仰付義ニ候
得ハ、御郡代様ヘ御届可被仰付旨を以て何分居
手形指戻候様、了簡可仕旨被仰付奉畏候

七月廿日

右之通岩田内之助様

(六丁目裏)

稲田武七郎様御下知

一傳馬状持之儀ハ追而御下知可仰付旨、七月

廿日被仰出候

官兵衛ヘ御下知

一御制服之儀、村々小百姓共も能々申聞、帶襟袖
口等ニ至迄も綿之外ハ相用ヒ不申様、可申聞事祭
礼等も近寄候得ハ、村役人共方篤と申聞せ能々
為相心得置、其上不埒之者有之候得ハ、村名相尋
書留可申上事

右御制道郷鉄砲ヘ被仰付有之候得ハ、村役人方

(七丁目表)

も重々申聞右御制道役懸合等有之候得ハ、了簡
可仕事

但男女ニ不限七歳以下七拾歳以上之者ハ不苦
事

此一件不辨之者迄も能々合点仕候様ニ可申聞事
印形等取候儀ハ仕間敷候事

入交ヘ御下知

一村々給人様御拝知高勸農御普請急々御用ニ付、
左之通相仕立急々可指上旨仰付られ奉畏候、右
之段阿波郡ハ大野鹿助ヘ申継候様、被仰付奉畏

(七丁目裏)

候

何野何右衛門様御拝知

何郡

一高何百石

何村

内何拾石

年々川成行

内何拾石 何年砂入二付何年
残而何拾石 何年迄御歟下引

御有高

但勸農御普請ニ相加里居申分又ハ相加ハリ

居不申分左書仕事

戌七月廿二日伺口

一郷高取居屋敷高拝領之儀、居屋敷高之儀ニ御

(八丁目表)

座候得ハ此度之地高懸御指除可被仰付哉、

一郷鉄砲拝領高切田高之儀ハ、如何被仰付哉、

御下知左之通

寺院 原士 郷高取 被下高之儀故一切

地役不懸事

郷鉄砲 切田取 右同断

一役人共所持之地高他村ニ而、所持仕居申候とも、

自他之無差別貳拾石高迄ハ引除候様被仰付候、

申上覚

戌七月廿二日坂東方伺口

一宗門御改百姓共印形為仕候砌、是迄筆墨紙

(八丁目裏)

諸造用として村々役人共手元頭壹人ニ五文六文

宛指出右集錢を以、麻植郡中下組ハ川嶋町於長

樂寺ニ定、當番御改被為仰付役人共支度料、旁頭壹

人ニ三文宛長樂寺ニ相渡候様、仕来居申候、然處名

西御郡代様御手崎之儀ハ、右造用钱當秋方相懸

中間敷御趣被仰付、御旨傳業仕ニ付、古来成来之運
申上名西御壹様ニも被仰付、御道理哉之旨、奉窺夫
々御下知被為仰付奉畏、其段御手崎組頭共へ私
方方申繼仕候ニ付、万一御下知業違之義ハ無御座
哉左と相記今一應奉伺候、

(九丁目表)

一宗門御改之節、百姓共頭ニ相懸或ハ五文又ハ八

文宛村々役人共手元へ請取、右集錢を以御改之

節役人共賄料其餘諸造用仕来候儀ハ、先當秋分

是迄之通、百姓共方集錢貢數増減無之取役人

賄料何程筆墨紙何程と夫々御改之筈、入用之諸

造用再定當番御改被仰付、御義故彼是費成義も

少々宛御座候得ハ、御改御病迷惑成不申様、組頭

共了簡を以、座元へ指遣相残過錢之義ハ其村庄

屋又ハ五人組ニ而も、慥成者手元ハ何程相預ケ置

候旨、組切帳面相約御改後可指出旨、尤是迄御改

(九丁目裏)

場ニおゐて役人共酒食費ニ成義仕来候趣、不心得

之事ニ候、向後ハ右様之義無之相極諸造用具ニ相

約、過錢之義前段之通相極置可申候、尚居り之義

ハ追而御下知被仰付御趣ニ被仰渡候、

戌七月廿二日坂東へ御下知

一太守様御鷹野御野合之砌御上覽被遊候所

川縁杯作物茹干等仕不計、夜分出水ニ而も有之節

ハ、流失仕候様之儀も難計被思召候、百姓共産業

心寄薄、右様仕万一流失等仕候時者、彝と難澁可仕候、右様僉畧二不仕産業出精仕厚相心得候様

(十丁目表)

申聞候様ニ

御意被為遊候御趣可申繼旨被仰聞候、

九月六日内之助様御下知

一村々五人組御用ニ相立候者、又ハ御用相施置候者相撰候事

但五人組ハ庄屋小遣安房役之様ニ申成、万事

庄屋野自由ニのミ相成候様之者多相懸御用ニ

罷出候節、御尋等有之候而も、何之答も不相調

様之者有之候、相施者村内ニ無之候へハ、無是非

有之村ニ而、不施之者五人與ニ仕段如何と思召候、

(十丁目裏)

相施候者五極困窮ニ而難相勤候とも旋者ニ候へ

ハ可申上筈、左候へハ御指替被遊事

大目附江

當年出水之國々多米直段引立候ニ付、此上追々高直ニ相成候而ハ、下々之者難義ニ可相及相聞候間、追而沙汰ニ可及条、天明八申年改之節出書候、酒造米高之内、半高酒造可致候、右改方之義ハ先達而方度々觸置候通、相心得可申候、若隱置増造致者於有之ハ、吟味之上其所々役人追急度各可申付候間、心得違無之様可致候、尤浦賀其外入津

(十一丁目表)

高改之義弥嚴重ニ申付候条、其旨可存候、右之趣御料・私料・寺社領共不洩様可被相觸候、

七月

是方奥ハ御請書ニ不仕事、

覚

今度從

公儀出水之國々多少米直段別立候ニ付、酒造之儀別紙写之通御書附御渡被成候、右様相心得郷中可觸知旨被仰出候間、早々可被相觸候、以上、

八月廿四日

(十一丁目裏)

右御清書組頭當ニ仕、坂東氏へ指出申筈、尤造酒人方村役人當ニして役人奥書ニ仕組頭當ニ為仕候筈、

(十二丁目表)

御掟御ケ條書

公儀方仰出候忠孝等之御條目御高札ニ御記御領中不殘奉承知事に候得とも、至而卑賤之者一文不通之輩ハ其御交儀とも不辨類数多可有之候、然時者下々凡俗御善政にも難改候間、左ニ記スケ條ヲ以村々庄屋五人與等為申聞味々之小百姓水呑風情の男女まで能可被令可知候、以上、
條々

一忠といふは、田野の民といへとも常々公儀を敬ひ御法度を堅く相守り、農業に無怠、人にも草

(十二丁目裏)

木乃力を助け、御田地不荒様に仕候事、公儀への大忠義に候、総而軽き者の下人にてても其主人に志厚く奉公いたし善事をす、むる輩は忠之者に候事、

一孝行之事ハ如何様之愚昧成者も善事と可存候得とも、己が利欲にひかれ、又ハ妻子にほだされ親には疎略に成族多く有之、ケ様之凡欲を幼少之者見馴聞馴候而、さのミ惡事とも不存自然と不孝に成候、不孝之者は畜類にも劣り候事と至て輕き百姓まで存候様二頭百姓より常々申

(十三丁目表)

聞事、

一男姑には嫁と成候者實の親より取分孝行を心懸べき事に候、養父母養子之間嫁姑之間継母継子之間や、もすれは、不和之者多し、欲心より本心を取失故也、互に能々心懸けむつましく可臻事、

一夫婦之間互に身上之儀、大事に可臻候、尤不義之振舞不可有之事、

附り女人等をうミ蚕をし、機を織候しわざ男の耕作にひとしく候間、幼少より習を家

(十三丁目裏)

持候以後懈怠申間敷事、

一兄弟は親之身を分ける物二候得とも、我身を

愛する同事ニ可存候所に、少分之權利をも年頃他人劣候者数多有之候、誠に浅間敷心入二候、其外諸親類も平生むつましく可致候、争論可ましき事有之候共、令和順なく恨を心に留申間敷事、一急病頓死の者尤養生を通し不相叶上二ても、煩て葬礼をいそぐべからざる事、

一親類内の者の不及沙汰他人に而も、老人をハ常々いたはり、或重き物を持運び或ハ骨折候事

(十四丁目表)

有之時は、若き者の代りに相勤候様ニ可然心候、且又老人并幼少ニ而無便者のをハ其村中、憐愍を加へ介抱致し可申事、

一召使之者憐愍し、就中老人童等飢こ、一に心附可養事、

一五人組之内、諸事申合或ハ長病又ハ不幸二而及困窮候者ハ、一旦に見繼若五人組之内にて力難事ハ村中遂相談助力すべし、総而組合之義何事により、次互に引請可相働、火難盜賊等互に守ふsekubeshi、尤家毎に明松より棒心懸貯置可申事、

(十四丁目裏)

但し惡事を進め候者於有之ハ、時をのばさ

づ早々大庄屋迄可申達事、

一兄弟親類の間不和に成、や、もすれハ及出入候事、其所ハ或ハ人に少之恩をあたへ常々其恩を心に挟相手之者志薄事をいきとおり、或ハ人

之恩を得たる利欲をかまへ偽を申、筋目違たる家財田地を貪、或生涯少之損亡すましきと存、平生人と争ひを起す、箇様之心根方大切成兄弟親之間を仇敵之様に成行候、総而人の恩を得たる事あらばいつ迄も忘るべからず、又我恩をあた

(十五丁目表)

へたる事ハ、さのミ心に持べからず、又筋目違ひたる家財田地等多少によらず取ましき事を覚悟し、又生涯之内損も利も時節到来之運と存少之不足を恨悔べからず、万事箇様に心を付候ハ、兄弟親類は申に不及、朋友近附之内漸々したし之所々風俗厚可成候、総而我望之能調義を不存物毎譲り合箇様に心懸可申事、

御壁書第四之御箇條

一国中歩若黨鉄砲之者小者中間面々知行付可被召抱、但歩若黨鉄砲之者杯之義者從今日跡之

(十五丁目裏)

義、可為居懸自今已後之義者、古郷付可令沙汰雖、然に知行をも遣召仕来候、侍之義者不撰處其身挨拶次第たるべし、但他領住居如何二候條、當主人領内へ其一家中計召寄置可為、尤附り文禄三年三月人定之刻居懸者之義者、其処末代之住処たるべし、其後所を立退方二住替二付而、本領主も不存、先々二而自然相論之族雖有之右人定之節他国二罷在其後現住之者先何時も故郷へ可

相附、并二置塩領人夫之義ハ慶長八年被地拝領之刻居懸之在処へ可被相付事、

(十六丁目表)

右御ヶ條者當時郡所におゐて取扱候品々

御元より相成居候取分左之通

一御国中歩若黨鉄砲之者小者中間之面々、知行二付可被召抱置

此御本文御家中之面々輕ク召仕候者ハ被下

候、拝知頭入之者を召抱候様二と被仰付候御義二而則當時におゐて給人頭入百姓先規奉公人等勝手二驅出召仕候義相調候、御元二御座候事但右御本文二付、其砌驅出召仕候者を寛永年中人改之節、奉公人之帳面相記、先役不申附明曆

(十六丁目裏)

年中棟付之砌、地盤先規奉公人同断先規奉公人と帳面二有書仕、給人何之何某江日役奉公任旨左書有之者之内二相當候趣、尤明曆棟付已後之義者驅出召仕之者夫役引不申、給人方小役引手形村方へ差出、一村中二而小役割差省居申候事、

一但歩若黨鉄砲之者杯之義ハ、自今日跡之義者可為居懸、

此御本文二從今日跡之義ハ居懸たるへしとの御義、文禄三年人定ノ刻三好郡何村住居二相

(十七丁目表)

付候所、前件御ヶ條之通、歩鉄砲之者中間等二召仕候ニ付、美馬郡何村ニ罷越居懸候者、右文祿三年之人定ニ不抱、元和三年正月以前之義ハ其節居懸之村方を住所と御定被仰付候事、

一自今以後之義ハ故郷付可令沙汰、

此御本文元和四年正月已後歩若黨鉄砲之者

ニ召仕候者ハ、文祿三年三月人定之御令住居候村方を故郷と相心得候様、御定被仰付候御事、

但右二ヶ條徒若黨鉄砲之者小者中間坏之義

ハ、驅出召仕候者ニ而御座候故、御本文ニ住居村之

(十七丁目裏)

義御定被仰付候、是譜代家来ニ無之馳出者ニ相當

候引合ニ御座候、且亦無格御奉公人之義御本

文之御趣意ニ附被召出候而も郷離不被仰付

候、尤勤中其身歩役者御免被仰付来候事、

一雖然少知行をも遣召仕来候侍之義者不撰處

其身挨拶たるべし併他領住宅如何ニ候条、當主人

領内へ其一家計召寄置可為尤、

此御本文ハ譜代家来ニ相當候御事譜代者之義ハ

根元村人夫外之者ニ候故、住居之義ニ付文祿元和

之御定めも無之、既ニ處ヲ不撰其身挨拶次第と

(十八丁目表)

御書出ニ相成居申候、右ニ付而ハ譜代家来之義

ハ其身ハ村方之懇談納得之上なるでハ住居

難相調運ニ相見へ申候御事、

右之通其身挨拶次第第二郷住相調候姿ニ候得共他

領住宅如何ニ候条、當主人領内へ召寄置候可

為尤と御書出ニ相成候所ニ而ハ、郷住為仕候

迎も、主人拜地付ニ相限候義と相見へ申候事、

右両件之懸を以相考候処、譜代家来之義者先

以主人屋敷ニ差置候哉、又者郷住為仕候ニおゐ

てハ御壁書之通拜地村ニ指置可申告、併仮令主

(十八丁目裏)

人無縁之村方ニ差置候義、御壁書之御表にお

ゐて難相調筋ニ相見へ申候事、

右御本文を以て郷方之取扱振を離れ相考候

処、御家中へ屋敷被下候とも格祿ニて廣狭之御定

メ等も御座候由、既ニ御家老方ニ者上屋敷中

屋敷下屋敷之三ヶ処被下有之中老千石以上

二者、屋敷被下御建彼は押量候而者、譜代家来

之中ニ而、高をも指遣候者を始、侍分之義多分屋

敷膝元ニ差置候筈、右様無之候而ハ、用事も不

相調、又非常急之用ニ相立不申、御治世間もなき

(十九丁目表)

御場合ニ而者、此処ニ深き御趣意可有御坐御事

と奉存候御事、

但譜代家来郷住居仕候義、主人心忖ニ難相調

先郡方江家来何某義勝手を以何郡何村ニ住居

仕度旨願出候、宗門諸事手元ニおゐて相構右村ニ

差置申度、指支無之哉之旨申来候へハ、村方差支之有無相鍛ひニ及候上、主人方居切手指出候、成来ニ御座候而御本文之御主意ニ相振候義無之事、

一文祿三年三月人定之刻居懸者之義者、其處末

(十九丁目裏)

代之住居可為、其後處を立退他方ニ住替ニ付而本領主不存先々ニ而自然相論之族雖有之、右人定之節他国ニ罷在、其後還住之者ハ何時も古郷へ可相附、

此御本文文祿三年三月人定之刻、住居仕候處を末代之住居可為興御書出ニ相成候義ハ、百姓先規奉公人に其村々人別之者ニ相限候、最其後寛永人定明暦・延宝・享保・文化と棟付改被仰付候時々ニ其村々人別相改他所へ散在仕

候者共も右棟附之調を以元村相定居申候、且

(二十丁目表)

御本文ニ其後方々住替仕、本領主不存先々ニ而自然相論之族有之ト御書出ニ相成候義ハ、右同断人別之者、文祿三年人定之後村方立退方ニと住居を替、根元之領主を不存論人ニ相成候者、右人定之砌住居仕候、村方へ相着候義、勿論之事又右人定之節他国ニ罷在、其後還住之者ハ何時も故郷へ相着べく旨、御書出ニ相成候義、右還住之者ハ文祿三年人定ニ相洩候者故、還住之

節者、其已然之古郷へ相付候様ニとの御義ニ候、住論之論人他国ハ還住之者等、今以明暦已後棟

(二十丁目裏)

○(「附」ノ誤字カ) 附ヲ元ニ仕御壁書通ニ取計来居申候、一并置塩領人出入之義慶長八年他地拝領之刻居懸之在処へ可被相付事、

此御本文ニ御當村々其後度々棟附改有之當時ニおゐて候外、村々同断ニ相成居申候事、

御本文譜代ならざる家来之御ケ條相付候筈之事、

附紙本文彼是之懸ニ付、當時郷住之譜代家来へ水吞料烟役坏と相唱、村方夫役割之砌、右家来身代相應百姓共手元夫役小役為相與内候義、其筋ニ

(二十一丁目表)

不當とハ難申、既ニ百姓先規奉公人等ニ而も元村を離れ他郷に住居仕候得ハ、當時住居之村方ニ而水吞料煙役坏と相唱へ、夫役與内之見懸銀相懸り来居申候、譜代家来迎も来人ニ而何れ之道村人別ニ無御座候ニ付、他村よりの来人同断ニ而御座候事故、右見懸銀之義者從來之成行相旨置不申而者一般之響合ニ相成候事、 以上、

(二十一丁目裏)

御国中万事心得 千賀久氏所蔵
銀札之始り

一延寶八申年より元禄八亥年迄ハ只今之銀札ニ而割合無請申答、

一元禄九年より銀札捨り寶永四亥年迄ハ銀札只今之銀札貳歩半之割合銀札ニ而請申答、

一寶永五子年より享保七寅年四ツ寶捨迄四ツ寶割合只今之銀子ニ而請申答、

一享保八卯年より享保拾四酉年迄新銀只今之銀子割合無請申答、

(二十二丁目表)

一享保拾五戌年よりハ一切銀札ニ而請申答

右之通元文年中被仰出候、

辻計代辻合毛仕様

高拾石五升

一畠壹町五反拾五歩

此拾五歩を三二而割五歩と見るニ付、壹町五反五歩と相立町を以、右高拾五石五升ヲ割ハ計代

二成壹石、

高石五升懸

麦七石五斗貳升五合

(二十二丁目裏)

此麦を三六二而割レハ米と成、此米を高二而割ハ夏請壹ツ三歩八厘八毛九抔ニ成、此分秋請五ツ成之内ニ而引時ハ秋請三ツ六歩壹厘壹毛壹抔と成、計代壹石

此計代ニ右秋請三ツ六歩壹厘壹毛壹抔ヲ懸候得

ハ三六一二と成、是ニ四ヲ懸候得ハ初壹四四四四と成、是ヲ三二而割ハ辻合毛四升ハ合壹タ四才八毛と成、尤諸口之粉米右四ヲ懸ルハ初之法三三而割ハ坪立之法

一畠小口割譬ハ小口五間半有所ニ而三畝入用之

(二十三丁目表)

時ハ三畝之坪九捨坪ヲ右小口之五間半を以て割ハ何間ニ間數知ル事、

一砂入畠地壹反ニ付砂五寸入候時、又ハ壹尺入候而も、砂何石と積時、一五三八四六と置砂入候、平

五寸有時ハ五ヲ懸候得ハ、七六九二三と成、貳斗三升七タ六才九と成京升直時ハ二〇二八ニ砂之

平寸ヲ懸と京升石ニ成、

變死有之檢使可勤心得

一檢死を勤ること心得有べき事也、其家に至て先出合たる者とも親類家内之男女不殘口書を

(二十三丁目裏)

取へし、實事にあらずして拵たるせにてハ不都合成所有之もの也、能々心を付て諸人の申分不都合するや否を聞べし、扨能聞届て後、其場へ行申口之趣と其場之躰と符合するや否やを考、扨屍を見分すべし、第一屍の新舊を見る事、春は三日、夏ハ一日、秋ハ五日、冬ハ十日にて古くなるもの也、次には衣服の様子面色香臭きに心付べし、次に疵の前後と初後と自他之仕業とに心付て

見るべし、次に矢疵・刀疵等疵口の様子によりて道具に心付へし、或人旅館にて変死自滅と申立

(二十四丁目表)

たりルるに、検使見分之上心付所有て、自分之仕業にあらざる疵と見たれば、厳しく家頼を吟味せしに、果して小姓の仕業なりと也、自滅の人ハ刀瘡手重収の手軽く、喉骨上難死、喉骨ノ下骨死食氣糸の如くに断へハ方に死と云り、能知べき義也、

一首縊の見様は頂下八字二縄の跡有もの也、縄頭何方へ向ひたるを見薙芥の有なし、またハかゝ里所の高下脚下に何物を踏たたる、又ハ縄の大小、縄の跡を同じきや否結び様式つき結ひ

(二十四丁目裏)

か結びとめか、又ハ十字かけか、やとへかけか、子細に可吟味、半眼にて口くひ志ばり舌くひ左右手疵手拳り足の指も少屈之手くびより指先まで紫色ニ成義も有之旨、縄目喰込血ぐミ有、大便少通、股浮腫等も有ハ縊死也、

縊死之者息絶るといへども、若臍下に少しでも温氣あらバ指救べし、急に縄を切て落しこもる氣一度キヨする時ハ救ふ事を得べからずゆへに、別の縄をもつて初の縄と同じ志め心に結ふべし、然後是をさゝげて静におろし、

(二十五丁目表)

臍下に温ため、縄を先つ少しゆるめて鼻に口をあて候、呼吸を助け吸ふべし、如此少しづ、ゆるめくして調息すれば万一蘇生するを越得る也、

一毒殺人の見様は口開面の色青紫、唇口紫色、指の甲青、口鼻血出、或ハ身疱をはつすといへり、一物に打れて死たる見様は、口眼開き、髪髮乱れ手握らず、若枝を受けて死するハ、打所疵の跡濶狭、男ハ陽農を看、女ハ陰門を看る、俱に疵付事あり、両眼腰の脇小腸疵の跡の有無を見るべしと

(二十五丁目裏)

いへり

一無疵にして頓に死たる者吟味の仕様品々心付有るべし、先病死之者ハ形体つかれ、瘦口眼閉合肚服低陷身上或ハ鍼灸の跡有是病死也といへり、近頃市間に住居せる一醫の頓死せる有て総底なし、又病死の驗も見へす、怪しかりければ検使も随分入念吟味有けれ共、不知所に小者の衣類の内方火箸を取落し手早に隠したるを見付、段々強穿鑿せしかは、其者の所為にて火箸を焼て肛門より指通し殺せしと也、

(二十六丁目表)

一溺死の見様は落入たる所の浅深を見るべし、生前水に溺れて死たるは、男は伏、女は仰く、手脚

前に向ひ口合ず眼開き、口鼻水有て流水す、十指
甲泥有、死後推レ水は口眼不閉、両手撒開肛不脹鼻
水なしといへり、

一鉄砲又ハ跌躓^{テッポク}死人は踏はづしたる所泥土高
低を見るべし、総して能心付見所を見聞聞時ハ
真偽曲直あらはれすと言事なくうかとしてあ
さむかれ、再見分に及び、其實發覺して悪人に一
味志たり杯と疑を蒙りてハ初の検使一分立か

(二十六丁目裏)

たき事なるべし、

百姓役銀子ニ仕書物之事

一かんのふの御普請之事

一新田御普請之事

一薪伐之事

一葭萱苅之事

一御材木代之事

一竹之事

但竹伐ニハ飯米不被下候事

但竹送ハ御赦免被為成候事

(二十七丁目表)

一諸事御奉行被仰付、御扶持方被下御普請之事

右之通御役御赦免被成被下候得ハ、百姓夫役ニ愈

老人役ニ付年中銀子貳拾五匁宛御請可仕候間、銀

子請ニ被仰付可被下候、銀子指上申儀夏秋兩度ニ

半分宛指上可申候、右七ヶ條之外之御役有来る

通可仕旨、寛政四年霜月廿六日在々願出ニ付、願
之通被仰付候、以上、

竹御定直段

元口ヨリ五尺上ニ而老人五寸沓^カ沓尺式寸廻り
一上々之 拾五匁七分

(二十七丁目裏)

右全断沓尺沓分^カ沓尺沓寸廻り

一上三 九匁三分六厘

右全断九寸沓歩^カ沓尺廻り

一中三 七匁八分

右全断八寸沓歩^カ九寸廻り

一下三 五匁七厘

一上々並末枯 四匁五厘

一中並下末枯 三匁貳分五厘

一上々並上総枯 三匁沓分式厘

一中並下 総枯 貳匁八分六厘

(二十八丁目表)

右同断七寸沓歩^カ八寸廻り

一四本結 四匁六分八厘

一同末枯 三匁沓分貳厘

一同総枯 二匁七分三厘

右同断六寸沓歩^カ七寸廻り

一六本結 四匁 三厘

一同末枯 三匁沓分貳厘

一総枯 貳匁四分七厘

右全断五寸沓歩^お六寸廻り

一八本結

三匆七分七厘

(二十八丁目裏)

一同末かれ

貳匆六分

一同総かれ

貳匆貳分二厘

右同断四寸沓分^お五寸廻り

一拾本結

三匆七分四厘

一同末枯

貳匆三分四厘

一同総枯

沓匆九分五厘

右同断三寸六歩^お四寸廻り

一拾五本結

四匆貳分九厘

一同末 枯

貳匆貳分壹厘

一同総かれ

沓匆六分九厘

(二十九丁目表)

右同断三寸沓歩三寸五分廻り

一貳拾本結

四匆三厘

一同 末枯

沓匆九分五厘

一同惣かれ

沓匆四分三厘

右同断貳寸六分^お三寸廻り

一三拾本結

三匆貳分五厘

一同末 枯

沓匆五分六厘

一同惣 枯

沓匆壹分七リン

長沓丈二尺以上元口^{もとぐち}^お五尺上二而沓尺八寸廻り

一上々小柄

三匆九分

(二十九丁目裏)

一上小かれ

三匆七分七厘

一下小かれ

三匆沓分貳厘

長沓丈沓尺文ハ九尺^お沓丈文ハ八尺^お九尺

一細小柄

三尺上二而沓尺八寸廻り

貳匆六分六厘

一同中小柄

貳匆三分四厘

一同下小柄

沓匆八分貳厘

一同下々小柄

小から同断

一上々並上なよ

四匆沓分六厘

(三十丁目表)

一中なよ

三匆七分七厘

一下なよ

三匆五分一厘

細小柄同断

一細上なよ

三匆貳分五厘

一同中なよ

三匆沓分貳厘

一同下なよ

貳匆八分六厘

五尺上二而貳尺貳寸廻り

一屑竹

三匆貳分五厘

葉ノ上二而三尺廻り

一笹竹

六分

(三十丁目裏)

此笹竹代例年相調御下知を以相立候事

笋皮ノ目付

壺本二付

一上々三	九拾五匁
一中三	九拾匁
一下三	八拾五匁
一四本結	七拾五匁
一六本結	五拾五匁
一八本結	四拾目
一拾本結	貳拾四匁
一拾五本結	貳拾目

(三十一丁目表)

一貳拾本結	拾五匁
一三拾本結	拾匁
一小から竹	七匁
一笹竹	四匁五分
一土舁坪建之法	

一土舁舁之舁ハ六尺五寸四方

一舁反三百歩之畠地ニ砂平シ舁尺入有之時ハ右

三百歩ニ舁尺ヲ懸高サ三十丈有之時ハ其ヲ六

尺五寸ニ而割時ハ舁目四斗六升舁合五勺貳才

(三十一丁目裏)

五二成

一右舁斗之砂坪ニ直す時ハ六尺五寸ニ六尺五寸ヲ

懸舁尺舁間四方四拾貳坪貳歩五厘と成、但舁舁

の惣坪貳百七拾四坪六歩貳厘五毛、此惣坪ヲ見

る時者右四拾貳坪貳歩五里六五ヲ懸ル

一砂尺四方舁坪懸目拾舁メ目舁舁ニ付貫數三千

貳拾メ八百七拾五匁此砂荷積舁荷メ數拾五メ

五拾六メ迄ニして百九拾荷

一舁反舁尺之砂四斗六舁舁合五勺貳才五此荷

數ハ八千七百六拾五荷、但取除人夫積場所貳丁

(三十二丁目表)

幅行時ハ往来四丁ニ成入手間懸人舁人ニ付七拾荷

ニ積り、一日歩行五里半位此積ニ而ハ舁舁ニ付一日ニ

貳人七歩舁リン四毛、右舁反歩之砂惣人數百貳

拾五人貳歩六厘、但舁日三人ニメ百三拾八人ニ成ル、此

賃銀一日ニ貳匁五分二積、三百四拾六匁貳分六厘

一右人數舁日舁人ニ付七合五勺御扶持方ニメ米舁

石三升八合七勺五才右八拾五匁ニして八拾八匁

三分右日雇銀之内ニ而引殘銀札貳百五拾八匁

一右日雇銀上六歩貳百八匁

下四歩百三拾八匁

但舁反高舁石貳計御請四ツ

(三十二丁目裏)

五歩ニメ米四斗六舁八合八拾目ニメ

麦五斗四舁 四拾目ニメ

三ヶ年鋤下被下百七拾七匁位

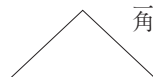
當時六歩之造用五三拾目御徳用

右砂人積之儀ハ前書法ヲ本ニメ入砂之寸尺反畝

之増減ハ其所々見合懸算ニ而相分事、尤土砂取除

場所遠近之差別其丁数ニ懸積口傳可有之事

三角



此間数ニ竿通_る左之間数ヲ懸合
時ハ步数相分筈

(三十三丁目表)

但シ三方拾間宛有之時ハ右間数之拾間ヲ三
ニ而割ハ、拾間はヲ四之三割時ハ分レといへ
も無覺束事
うるこの姿



此長方之間数ヲ打四ニ而割定法

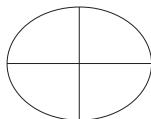
但うるこの中真_ら天地の丈ヲ計趣ニ_ら

口傳可有之事

丸ハ中ニ而十文字ニ打平シ、右間数ヲ懸合時ハ、坪
数成と見へる是七九ヲうける時ハ平坪何百

(三十三丁目裏)

坪と成



右十文字三拾間宛有之時ハ七百
拾壺歩ニ成

小判成ノ地長三拾間有之時三ニ而割三ツ二分ノ貳
拾間ハ頭引ニ而、貳百坪と引置殘拾間ニ横幅貳拾間
ヲ懸合時ハ、貳百坪ニ成右貳百坪ニ貳を懸り四百
坪成、右四百坪ニ七九ヲ懸る時ハ三百拾六坪と成

(三十四丁目表)

積廿間

寧川十三

右本坪三百拾六坪ニ始メ引置貳百坪ヲ合、惣坪五百
拾六坪ニ成

勝浦郡

一高貳万四百拾之石五斗

御蔵高

一同七千九百五拾式石七斗

御給知高

那賀郡

一同壺万九千貳百七拾八石

御蔵高

一同壺万貳千八百五拾貳石

御給知高

(三十四丁目裏)

名東郡

一同壺万七千三百八拾貳石

御蔵高

壺斗四舛九合六才八勺

一壺万三千四百七拾

七石壺斗 御給知高

六舛七合四勺貳才

阿波郡

一同貳千七百五拾三石 御藏高
一同七千五百貳石貳斗 御給知高

麻植郡

一同六千三百三石八斗五升 御藏高
九合八夕五才

(三十五丁目表)

一同九千貳百九拾五石三斗 御給知高
九舛五合六才

名西郡

一同壹万三千七百四拾六石 御藏高

三斗八升九合壹夕

一同壹万百九拾石五斗六舛 御給知高

壹合四夕

板野郡

一同貳万三千七百五拾六石 御藏高

七舛九合七勺九才

一同貳万千百六拾五石七斗 御給知高

五升八合四夕八才

(三十五丁目裏)

三馬・三好両郡

一同壹万六千五百石 御藏高

一同壹万六千五百石 御給知高

合貳拾壹万九千石

内九万九千石

内拾二万石

御給知
御藏

右ハ此度壹統立合大綱を以相記右高を以、諸懸
物五日夫追立夫右一件割符二付、如此記置、尚又追
々郡々々委敷儀ハ相仕出置申答

享和貳戌十月

(三十六丁目表)

一夫役九百八拾貳人貳歩 麻植
一同 七百 五人 八歩 阿波
一貳千八百貳拾五人九歩 美馬

三好

一 八百七拾 貳人

板野

一六百七拾貳人三步三厘

名東

一千二百四拾三人四歩

名西

一六百貳拾六人

勝浦

一五百貳拾八人四歩

那賀

八千四百六拾六人三厘

頭四万貳千三百三拾人

申上ル覺

付紙

一御六方様送夫御状持并右御方々様御下御役
人送、夫御状持郡切御藏御給知御物成二賃銀割
符可任旨被仰付奉畏候、
此株神領村組之義ハ五日夫御用相勤候而、傳
馬役之義相勤不申、然ル処此節右五日夫勤方
御讃談被為仰付、今以相片着不申二付送夫御状

持賃銀之義、先當年之義ハ相除候様可被仰付
哉奉伺上候、

(三十七丁目表)

一 御厩御用之藁飼葉郡切御蔵御物成割符可仕
旨被仰付奉畏候、

付紙

此株昨日御厩御用藁飼葉割方ニ相混候様之申
よ方仕候様奉存候、御厩御用藁飼葉之義ハ根
元御蔵高へ相懸候品故、此度御物成割ニ被仰付
安宅藁鍛冶御蔵繩ハ根元夫役ニ而相勤居申義
故、御蔵御給知御物成ニ御割符被仰付度奉存候、
乍恐右之段も一應伺上候、

一 安宅御用様撰藁鍛冶御蔵番繩の義も郡切御蔵

(三十七丁目裏)

御物成ニ割符被仰付奉畏候、

一 組頭庄屋・平庄屋・五人與・行き共へ被下置候加勢
夫先是迄之通、夫役ニ割符仕取立置候様被仰付奉
畏候、

一 村々市中旅宿料村々御蔵御給知御物成割符
仕候様被仰付奉畏候、

一 御圍粉之義當年上納分精米壺石ニ付拾匁宛御
建置銀可奉指上旨申上候処、右御建置銀六ヶ年
分當年一時ニ差上候様被仰付候、右様被仰付候而
ハ銀高餘程相懸リ申候、尤地盤之通初御圍被仰

(三十八丁目表)

付候而も上納任候筈之義ニ候得ハ、前段之通被仰
付候而も迷惑トハ難申上候得共、昨年以來出水
續之義故百姓共困窮仕、昨年ちも金他詰ニ而難盡之
者も可有御座候哉と奉存候ニ付、乍恐御建置銀當
年ハ先ツ一ヶ年分員数被召上、尚又御趣次第二如何
様共被仰付度奉存候、

一來正月御蔵祭御祝飾當年麻植當年麻植・阿波上納廻リニ
御座候、然處昨年板野郡より上納仕候入目凡式貫
目餘も相懸リ居申ニ付、郡々廻リニ引請相納候而ハ
賃銀相懸リ申ニ付、當番之郡より相納置賃銀入

(三十八丁目裏)

目九郡御蔵高へ割符被仰付度奉存候、且又郡々
御高多少之有之郡切引請相納候よりハ九郡割ニ仕
候得ハ、年々賃銀聊宛指出申義故郷下一鉢納易
平等可有御座奉存候、何分郡切ニ相納候而ハ賃銀
多少相懸リ可申奉存候ニ付、右之段奉伺上候、以上、
付紙

此御歳祭御祝飾一式昨年ハ式貫目餘も相懸

候赴ニ付、此節市中ニ於ゐて所々承り合候所請
持人へ才判為仕候へハ、壹ノ五百目程ニ而入目相
濟候相聞申候、猶又重々相行着候ハ、此上相

(三十九丁目表)

減可奉存候、先右之段奉申上度

戊

岸 新左衛門

十一月七日 細井民 助

入交又左衛門

松村犬右衛門

近久 官兵衛

三木長左衛門様

多田林五郎様

御掟之條々

御掟之條々

一惣而御檢地有之村々之儀其至年立毛之趣見

(三十九丁目裏)

分可仕事、

一御檢地ニ罷出候節、村々見分之上土地之善惡相

考置竿初メ可仕事、

一御檢地村々第一用水之有無惡水咄之趣洪水

之害彼は相考田畠之差別尤矩之了簡可仕事、

一方圓曲直其外異形之地面竿立難隨其地形於

又地主難心得、於地面ハ町縄ヲ引地主共致得心

候様ニ可仕候、地面之廣狹於相改竿立肝要之事、

一大地ハ縄ヲ以小切ニ仕竿ヲ入尤間數相延候地面ハ

又縄ヲ引其縄ニ竿打可申事、

(四十丁目表)

一竿打之次第難為委細竿之打様依善惡余田不

足地有之事ニ候故、竿ニハ両手を懸腰ヲ打右之膝を

突先ヲ不曲様ニ打可申旨、竿打之者共可申付候、竿

打之者共へ可申付候、竿立竿打惡敷矩壹反地壹

歩廣成候得ハ、壹歩之御年貢百姓永代作徳仕、又

壹反之地壹歩狹成候得ハ、壹歩之無地ハ御年貢

永代百姓まとひ申段彼是以無勿体仕合不安義

二候、

一古新田畠とも土之善惡ヲ相考合毛ヲ以、矩定ル儀ニ

候係向後合毛貳割宛御定免被成候事、此段惣而

(四十丁目裏)

御檢地之村々請之貧數を何ツと定置、矩取之者

田畠之見分仕此地ニハ合毛何合毛出来可申旨、見

置其合毛を以、高計代を定請取合申義ニ候、然時ハ

壹舛宛と見置申壹升と極候而ハ、百姓迷惑仕事ニ

候故定免仕来候得ハ、矩取之者共何程定免可仕

と申合無之其御給地在所之趣ニより面々存知寄ニ

少宛用捨仕義往右之成行ニ候、然共矩取之者俱

存寄一純可仕様無之此村ハ合毛之用捨少シ不

同可有之候、於然ハ百姓幸不幸難計本文之通式

割宛御定メ被成段 上ニハ御失墜無之、下ニハ御隣

(四十一丁目表)

惣可為平等義也、

一畠方御檢地之節、麦之合毛ヲ以矩取相極候事、此

段田畠とも御檢地之節秋合毛を以古来ハ矩定

来候、然共向後ハ田方ハ秋米を以本ニ仕畠方ハ夏

麦を以本ニ仕本行之通被仰付候、

一田方ハ計代高ク嶋方ハ計代卑ク段古来ハ之

成行ニ而候得共、此節ニも寄可申候條、向後ハ嶋方之

計代了簡仕候様、被仰付候、此段ハ田之上々ハ大
對式石七八斗三石迄も有之畠方ハ上々壺石五
斗高キハ無之候、尤畠ニハ地之こやし等も大分

(四十一丁目裏)

入候得ハ、田ニハすきかけ仕事畠ヲ猶以手間入之
事候故、大形ハ造用之差別も有間敷哉、然ハ畠方
ハ作毛種々有之上高安ク候故、大分之作徳と相見
候、依之相考候処、御国南北之土地北方ハ畠方南
方ハ田方ニ候、大畧北方ハ在處柄拔群宜敷南方ハ
北方程とハ無之旁以向後畠方之許了簡仕候様ニ被
仰付候事、

一御藏給知入組之在所御藏入分御檢地有之刻、
給知御藏一面之田地方角迄境不知給人家來之
者召寄御檢地之子細申聞両方竿入餘田不足と

(四十二丁目表)

も御藏給知割符仕御藏分まで御檢地步ヲ相改
來候、然共右境不知ニ而給知も竿入相改候得ハ、先
御檢地帳面之通矩ハ給地何反と相定上不足於
有之ハ御藏方足シ或ハ余田於有之ハ可被召上
道理と御藏奉行存知寄両條ニ而詮議落着難仕ニ而、
天和三年正月十四日御頭人長谷川主計殿御宅
ニ而、御下仕置下条右衛門・兵衛・先山太兵衛・御横目
柳本権兵衛列座ニ而、右両条之趣相談、前々御檢
地仕來通自今以後も御藏給知入組之田地境不
知竿入過不足双方へ割符仕様ニと長濱平左衛

(四十二丁目裏)

門、長谷川六郎右衛門、仁尾安右衛門、岩田彦之丞
に主計殿被仰渡候、

一村々惣御檢地之節御藏入給地一株之田地入
交境目不知地面ハ惣様遂御檢地田地有餘不足
共御藏給知割符仕來矣、然共庄屋百姓件之境從
先祖如此と申出候へハ、境月不明ニ候ハ承届
給知方へハ竿入不申候、向後ハ矩境目分明ニ候
共、一竿之田地御藏給知へ別候義ハ、惣而檢地之
之節給知へも竿入已ニ有來之通有餘不足共割符
被仰付候、尤御藏入分ハ新田給知分ハ古田ニ而も

(四十三丁目表)

可為右同前事、右之通被仰付候節、御藏給地共毛
頭御檢地無之候、元來給知之節一竿之田地御
藏給知へ庄屋五人組割當候程、最初方地割不成
體義候条、本断之通向後被仰付候、從先祖之境目
差届候段も御檢見人其節之任了簡義ニ候得ハ、
大勢不一樣可有之義ニ候、
一步留之義三步方四步迄ハ三步ニ仕、五步方六
步迄ハ六步ニ極メ來候、雖然同後ハ三步方五步
迄三步ニ被成、尤其餘ヲ夫々准被御仰付事、
此段ハ往古方壺步貳步九步と段々有之候処、左

(四十三丁目裏)

様ニては高を懸候節何勺と申分有之算用之同た
りニ成不宜候故、中古方已來三步六步九步と歩留

り相極候、依之高二何尺と申事無之、何合と留候ニ付、算用等宜敷候、然共貳四歩之地ハ三步ニ仕遣候

得ハ、地主壹歩之徳と仕候故、御失墜迄ニ而無之義ニ候、但五歩之地六歩ニ仕候ヘハ、地主壹歩之損仕事ニ候、然ハ是又民之幸不幸平等ニ其上五歩之地ヲ六歩と仕候節ハ、壹歩無地面方永代御年貢被召上義有間敷事ニ候

一開添可申地形も無之處、三步ニ不足地ハ御檢地

(四十四丁目表)

ニ不及義ニ候、但百姓之願ニ可申事、

壹歩式歩中歩留リ無之故鍛^{ツマ}壹歩式歩ニて而も三步と御檢地仕候、左候得ハ、是又無地面より御年貢ニハ被召上義ニ候、

一居屋敷之矩居内同矩ニ被仰付候屋居敷ハ居屋敷ニ而壹短高ク、従先規被仰付来候、後々其屋敷ヲ立去り家床も田地ニ成候節、同然之地面居内と家床と壹矩違ニ而ハ作主之迷惑後々可為煩義故本行之通被仰付候、

一御給地村之義向後道幅被仰付事、

(四十四丁目裏)

子細ハ御給地仕候節、百姓共依願有来道幅を廣仕、又ハ新規之作道家々之通り道其外井溝等迄も遂吟味田地引継来り候、然ル時ハ於後百姓共依横道道幅ヲけつり寄せ井溝を埋田地ニ仕義全有間敷候、道帳面之義青材両冊申付青

表紙ハ御藏ヘ入、柿表紙ハ在所ヘ遣可申事、

一在所通り道并ニ作道等式尺方三尺迄見合ヲ以引繼可申事、

一田地之畔大畧壹尺程引可遣事、

一在所近邊之地ハ遠方之地共心同然ニ候とも、遠

(四十五丁目表)

方ハ壹矩安ク可仕候、尤遠方之趣ニ尚了簡可仕事、

一任せ水ついはせ水かい桶水之田矩之次第大

園壹短宛減少可仕事、

一御檢地之村々上々之計代高キ節壹斗飛ニメハ下々之計代ニ至テ地面不相應ニ高ク可有之見分之趣次芽式斗方三斗四斗迄も飛せ可申事、

一上々と上之田地双方矩大集く節ハ何時も上

々方ヘ落着可仕下之段右同然之事、

一御竿先百姓共矩之願申出節ハ随分念比ニ相尋

(四十五丁目裏)

決行之上矩定可申候附目竿立之義も右同然ニ候、

一前廣相濟候田畠竿目狭ク在ル旨ニ而打直之義地主申出刻不及異論、早々打直遣シ可申事、

一山分御檢地之節、名々ニ而地面善惡有之節計代其名切ニ可相究事、

一自今己後御藏入ニ相極候村々御檢地之義、只今迄ハ四ツ請ニ仕来候得共、此以後者不限四ツ請ニ其村々之趣次第ニ被仰付候事、

一惣御検地之節少二而も川ヲ隔て候哉、又ハ其在所を誰レ隣村近寄候地ハ御検地帳面之地高ヲ仕分格

(四十六丁目表)

段ニ記置御検見杯と之節惣想村中へ構不申將明可申事、

一新開畝下之年數明之節早々遂御検地候得ハ百姓迷惑不仕候得共、御検見人御用多く候故、御検地相延申事も只今迄ハ畝下明候年ハ御検地有之年迄ハ追待米被召上来候得共、御検地相延候段百姓ニ科無之事故、向後ハ追待米御赦免被成御検地有之年ハ御年貢可被召上事、

一上リ知川成分早々相改可申事、

一川成改之義川成之趣所々御検地帳夫々之株

(四十六丁目裏)

江書附置改人印形加へ、其上ニ而引證文遺シ可申候、尤御蔵へも其通之帳面仕置可申事、

一御蔵給知入組地境不知川成ニ節ハ割符ヲ以引遣可申事、

矩ハ壹段地半分宛御蔵給知別レ其境目尤方

角も不明川成候節ハ本行之通川成分ヲ有地分

御蔵給知へ割符可仕候、

一堤床井溝引間數之義目路見御奉行又ハ時々

御奉行又ハ時々御奉行間數改之通引来候、然共

御給地御検見人罷越候得ハ御検見人相改間數

(四十七丁目表)

之通引遣可申事、

一村々御検地之節、寺屋敷有之墓所并百姓居屋敷之内有之墓所從先規御検地指除不申竿ヲ入御年成ニ仕来候、然共向後件之墓所御検地指除御年貢御赦免被成候事、

一先規有之候在々仏神堂宮床并二神前之馬場附子細有之墓所先年ハ御検地除御年貢不被召上候、弥成来之通御検地指除御年貢御赦免被成候事、

一下ハ奉願被聞召届上新ニ献立仕宮床ハ御検地

(四十七丁目裏)

差除御年貢御赦免之事、

右三ヶ條元禄六年五月十八日被仰出候、

一往古ハ凶年之節村々ハ御検見中古己来矩御

検地不願出候、

一作荒引被下候、向後ハ往古之通御検見不願

出節ハ一作荒引間數事、

一往古ハ腰張検見之節、廻廻仕中古己来見廻ニ仕

候、向後ハ往古之通廻廻ニ被仰付候、於然ハ立毛上

中下貳所宛合六ヶ所ニ而廻可申事、

一夏秋田畠小見付之節、合毛ヲ考百姓ニ申聞候者少シ

(四十八丁目表)

二而も百姓違背之躰候ハ、升ヲ入申候、尤入所之義申分之率全甲乙無之様ニ随分了簡を加へ可申事、

一立毛見附之節、春地并小苗床麦懸之義村惣辻
平仕候義、矩一竿之地之内不依多少二入交春地又ハ
小苗床二仕矣節残地之立毛二可准事、

一夏秋見附之節居屋敷之分ハ其内立毛二可准事、
一夏秋共見附之節雜穀割替之義其節其品々之
町相場ヲ以米麦二直相極来候得共、向後ハ其雜穀其
品々見附置御定之直段ニ割替相極其己来米麦直
可申事、

(四十八丁目裏)

但割替無之作毛之義見附之節、相場直段を以
了簡可仕事、

一御検見之節諸立毛刈跡其所之上仕来候得
とも、刈取候料於無之ハ春請にて可仕候、

但不将成趣候ハ、勿論上毛可仕事、

右之通元禄七年申年二月九日長谷川主計殿御

頭人ニ而被仰出候、以上、

一早稲 其村々上毛疼無御座候時ハ上毛二申付

候、尤上田下田見合地盤年貢方憎取候

様ニ申付候事、

(四十九丁目表)

一たい初割合貳割之事、

一腰張帳

大概百石之苅程二闌入申事、尤闌之義ハ未見分
無之内苅取候地株ヲ相極申事、

但五合立毛二而苅七合毛有之時ハ、貳合過貳

割ノのりと相定、右割合ヲ惣初ニ然取候事、
勿論歩竿ハ老間四方之事、

一合毛

腰張帳面之下方仕出有之候ハ、合毛不都合
之義無之哉と致見分候上にて致歩苅致候事、

(四十九丁目裏)

但合毛不都合之仕成於有之ハ帳面調直させ
候事も有之候、

一寄せ初

腰張帳仕右之通其俣相用ヒ申候事、

但不同有之候ハ、直せ申事、但此初ハ闌廻し

割合ハ懸不申候、

一無毛

勿論其俣御年貢引ニ相成申事、

一惣初

五合摺ニいたし出来米之内六歩ハ被召上四歩ハ

(五十丁目表)

下へ遣シ申事候事、

一餅米

平生米之通ニ取遣之事、

以上

辻合毛之見様

一計代壹石五斗ニメ秋請四ツ之時右請ヲ懸候得ハ、
御年貢六斗と成ル、是二延ヲ掛七斗貳升ト成ル、
外二四斗八升四歩之作徳有合壹石貳斗是を約二

ノ貳石四斗ト成ル、是ヲ之ニ而割ハ合毛ト成ル也、
但成米ニ六六々々懸候得ハ四歩之作徳知る也、

(五十丁目裏)

又十五ニ而同断也、

又六斗代ニ秋積ヲ懸テ又四ヲかけ三ニ而割ハ八合毛と成ル、
早算也、

右四之發り

納升之米壹石有時貳斗之延米有合壹石貳斗是ニ
八斗之下り有高合貳と成ル、是ヲ倍而粉四石と
成ル、是則四之發也、

四歩之作徳見万事

一御年貢知レ四歩之作徳見る時右御年貢ヲ十五
ニ而割ハ四歩之作徳と成ル也、

(五十一丁目表)

右十五之發り

六歩之御年貢ヲ四歩之下りニ而割ハ十五と成ル、是
則發也、

又四分之下り二十五かけ候へハ、御年貢知ル也、

麦請之仕様

一辻ノ麦ヲ三六ニ而割ハ納升之末と成ル、其米ヲ高
ニ而割ハ請と成ル、

右發り

納升壹石ニ貳斗延有

元延壹石貳斗ニ麦三石六被 召上候故也、

(五十一丁目裏)

子細ハ右石ハ壹石之右ニ成ル故也、

秋合毛見様

一計代ニ請ヲ懸其米ヲ七五ニて割ハ合毛見る也、
右七五之發ハ

成米壹石 延米貳斗 下り八舛

合貳石是ヲ倍而粉四石此四ニて三百歩ヲ割ハ七
五と成ル、是則發也、

又元延成米成米ヲ三ニ而貳度割るハ合毛見る也、

但初ノ三八請口之粉後之三ハ三百歩之三
也、

(五十二丁目表)

也^{マヤ}

高捲様之事

一步刈粉壹舛三合

内三合ハ定合ニ引

但壹舛毛以上ハ三合之定合壹舛毛以下ハ三

合五勺之定合

残而壹舛

但壹反之粉見る時は二三百歩ヲ懸ル

粉三石と成ル、

此米壹石五斗

(五十二丁目裏)

内四歩ハ百姓作徳ニ引六歩之小納九斗と成ル、

此九斗之米納舛ニ直シ、

七斗五舛と成ル、
但九斗ヲ十二ニ而割也、

右七斗五升ヲ請三ツニて割ハ斗代貳石五斗と成ル、
但困窮ニ付、存所ニ而高高キ時ハ高懸等之節迷惑
仕候ニ付、高早ク仕時ハ請高ク四ツニすれハ計代
壹石八斗七舛五合と成ル、

一 初何石ニ而も四ニ而割ハ納升之米と成ル、尤六歩
也、

(五十三丁目表)

一 初何石ニても三ヲ掛候得者納升ニ成ル、

一 合毛ニ七石ヲ懸ケ候ヘハ、壹反之納升米と成ル、

請ニて割ハ計代と成ル、

一 麦合毛見る事

成麦ヲ六ニて割ハ諸口之麦しれる也、是を三ニ而

割ハ合毛知る也、

以上

假御檢地矩定

上壹石壹斗四ツ四歩 米五斗貳升八合内麦

上下 四ツ 四斗八升

(五十三丁目裏)

中上八斗 三ツ貳歩 四斗八升四合

中 七斗 貳ツ八歩 三斗三升六合

中下六斗 貳ツ四歩 貳斗八升八合

下小四斗 壹ツ六歩 壹斗九升貳合

下 三斗 壹ツ貳歩 壹斗四升四合

下々貳斗 八歩 九升六合
下々下壹斗 四歩 四升八合

但諸木植付場米三升六合麦不懸計代中迄ハ
壹斗飛ニして中上ノ貳斗飛も有之不定、

一 請ヲ見ル事

(五十四丁目表)

高壹石ニ相當り候、矩之所四ツ請三割合ニ候得ハ
右運ニ而成米を以高請相分申候、

四ツ請ニ候得ハ高二四ツかけ候得ハ請四ツと成、

此請二十二ヲかけ候ヘハ、貳割延し成米四斗八舛

と成、此成米を四ニ而割ハ麦之米ニ成壹斗貳升是ニ

三ヲかけ候ヘハ、麦三斗六升米も三斗六升宛ニ

成、

一 請ヲ見る時ハ米を十二ニ而割高ヲ見る時ハ、壹石

と相當り候、矩之米四斗八舛ニ候得ハ、米ヲ四八ニて

割ハ高二成、

(五十四丁目裏)

一 田成之場所矩付高請成米拵様左之通、但田成

上所ハ三ツ矩踊有之ニ付、根元拾貳矩ヲ見る法とす、

雖高之建様ハ、大抵中反ニ付八斗と建夫ノ上ハ貳

斗上り下ハ壹斗下りと知るべし、然共其土地見

平し之趣ニ上ヲ三斗違下ヲ貳斗違ニも相居エ可申事、

上々上 貳石壹斗 八ツ四歩

上々 壹石八斗 七ツ貳歩

上 壹石六斗 六ツ四歩

上々 壹石四斗 五ツ五歩
中上々 壹石三斗 四ツ

(五十五丁目表)

中上 壹石 四ツ
中 八斗 三ツ貳分
中下 七斗 貳ツ八歩
下上 六斗 貳ツ四歩
下 四斗 壹ツ六歩
下々 三斗 壹ツ貳歩
下々下 壹斗 四分

一假御検知ハ反数米麦之懸り相記高ゾ隱有之故、彼高并請ゾ見る時ハ麦を三ニ而割米ニ直シ米之都合ヲ一二ニ而割ハ請何つと成と知るべし、尤畠

(五十五丁目裏)

数ニ而九ツ矩揃居申時ハ、末之下々下畠凡壹反ニ付、壹斗畠ニ而有之候麦ヲ三々ニ而割米ヲ加へ彼米ヲ十二ニ而割ハ請何歩何厘と成、是則十分一ト知る也、然時ハ請何ツ成、高も壹斗と分るべし、夫々上ハ請何ツ成と知る時ハ成米ヲ請ニ割ハ高何斗と分ル法也、何れも右ニ準ず、

但畠少く矩も不付畠有之時ハ、成米ヲ十二ニ而割見る時ハ請八四と出れハ四ツ貳分之貳斗代也、又壹ツ貳歩六厘と見れハ三斗代也、若請計代難相分時ハ是等之儀も心得可有事也、

(五十六丁目表)

一麦之懸定なし、然共御検知後請上時ハ米迄ニ而麦ハ上り不申由、

一諸木植付場ニハ反ニ付高壹斗請貳ツ五分位開地ニ相成候得ハ、下畠四ツ請位ニも相居エ可申事、尤土地能々見て相應矩相付可申事、開地ニ願出候得ハ麦も懸申筈、

一孝心之者之事、

一不孝者の事、

一義理能もの、事、

一行状能もの本意なるもの、事、

(五十六丁目裏)

一行状悪敷者不本意なるもの、事、

一正直ニ應シ候もの、事、

一正直もの、事、

惣て五倫之筋ニ取り尤なるもの不尤なるもの、

の、

一御法を守るもの不守もの、事、

一田地ニ懸正不正之もの、事、

一藪萱野正不正之もの、事、

一御藏地給地混候様仕もの、事、

一過酒忝事、尤戒喧嘩を好ミ其所ニ而持餘しもの

(五十七丁目表)

、事、

一胡乱なるもの宿仕もの、事、

一奢を禁し候事、

右之類常ニ相心懸可申出事、

牛島村組

一御藏高八百九拾八石九斗八合四勺壹才

一御給知高貳百三拾三石五斗四合七勺

合千百三拾貳石四斗壹升三合壹勺壹才

喜来村組

一御藏高千百貳石壹斗六ノ升七合貳夕貳才

(五十七丁目裏)

御給知高千貳百貳拾八石五斗壹升九合八勺七才

合貳千三百拾石六斗升七勺九才

敷地村組

一御藏高百八拾九斗七升八合六勺七才

一御給知高千百四拾四石八斗八升三合四勺貳才

合千三百拾四石六斗六升四合九才

川島町組

御藏高四百拾貳石七斗七升八合九勺七才

御給知高千七石五斗五升三合八勺六才

合千四百貳拾石三斗三升貳合八勺三才

(五十八丁目表)

三嶋村組

一御藏高千六拾八石四斗九升貳合六夕之才

一御給地高千五百五拾八石七斗七升三合七夕九才

合貳千六百貳拾七石貳斗六升六合四夕貳才

西川田村組

一御藏高千三百三拾九合三斗三升貳夕六才

一御給知高千貳百三拾九石貳斗八升六才

合貳千六百三拾九石貳斗八升六才

本屋平村組

一御藏高四百六拾壹石

(五十八丁目裏)

上浦村組

一御藏高四百六拾三石九斗三升七合壹勺七才

一御給知高貳千四拾七石八斗九升壹合六勺壹才

合二千五百拾壹石八斗貳升九合七勺八才

總合壹万四千四百五拾七石四斗七升三合三勺

八才

御藏高

内五千九百九拾六石三斗九升六合三勺三才

御給知高

内八千四百六拾壹石七升七合五才

(五十九丁目表)

上浦村

一御藏高拾六石九斗貳合

一御給知高五百拾三石六斗六升七合三勺

合五百七拾石五斗六升九合

麻植塚村

一御藏高貳石三斗貳升九合五勺七才

一御給知高貳百貳拾九石七斗九升貳合四勺

合貳百三拾貳石壹斗貳升壹合六勺壹才

内原村

一 御蔵高百石四斗七升貳合

(五十九丁目裏)

一 御給知高貳四拾七石四斗貳升貳合六才

合三百四拾七石八斗九升四合六才

森藤村

一 御蔵高百三拾六石六斗貳升四合貳勺六才

一 御給知高五百拾貳石六斗七升五勺九勺

合六百四拾九石三斗壹勺六才

山路村

一 御蔵高貳百三石貳斗九升八合

一 御給知高五百四石三斗三升三合七勺七才

合七百七合六斗三升壹合七勺七才

(六十丁目表)

五箇村

合二千五百七石五斗壹升七合四勺四才

御蔵高

内四百五拾九石六斗貳升五合八勺三才

御給知高

内貳千四百七石八斗九升壹合六勺壹才

麻植阿波両郡割分地高左之通

阿波郡

一 御蔵高貳千七百五拾三石

一 御給知高七千五百貳石貳斗

(六十丁目裏)

ノ壹万貳百五拾五石貳斗

麻植郡

一 御蔵高六千三百三石八斗

一 御給知高九百貳千貳百九拾五石三斗

ノ壹万五千五百九拾九石壹斗

合貳万五千八百五拾四石三斗

内九千五拾六石八斗 御蔵高

同壹万六千七百九拾七石 御給知高

他郡懸合之節仕出末居申高左之通

麻植郡中

(六十一丁目表)

一 高壹万四千拾四石六斗四升四合八勺六才

但役人高引残

一 御蔵高

内五千五百五拾三石五斗六升七合八勺壹才

一 御給知高

同八千四百六拾壹石七升七合五才

但合留仕指出末居申候

板野郡

一 惣高四万七千四百三拾四石貳斗六升

勝浦郡

(六十一丁目裏)

一同貳万貳千百六拾四石壹斗三升九合

那賀郡

一貳万八千五百九拾七石

阿波郡

一同九千三百七拾石八斗七升壹合三夕

名西郡

一同貳万八千八百九拾四石三斗八升六合

名東郡

一同貳万八千貳百拾六石五斗八升貳合六夕

右ハ文化元年子八月改

（四国大学文学部日本文学科日本文化史・博物館学研究室）